

出前講座「岩手・宮城内陸地震」

- 開催日時：平成27年11月13日（金）9時30分から11時00分
- 開催場所：岩手・宮城内陸地震災害現場（市野々原、祭時大橋）
- 参加者：宮城県消防協会 名取支部、岩沼支部 18名

国土交通省岩手河川国道事務所では、総合的な学習の一環として出前講座を開催しております。11月13日（金）、宮城県消防協会名取支部・岩沼支部の皆様18名が「岩手・宮城内陸地震」の被災現場を見学し、当事務所調査第一課の山影課長が説明しました。

最初に、平成20年6月14日に発生した「岩手・宮城内陸地震」で大規模な河道閉塞（天然ダム）が発生した市野々原地区を見学しました。参加した皆様からは、

「市野々原地区は土砂災害の危険区域だったのか」

「地元の建設会社の掘削作業は市の要請だったのか。それとも会社の独断か」

「なぜ急勾配の左岸側ではなく、なだらかな右岸側が崩れたのか」

「山一つ一つの地質は、国では把握しているのか」

など、防災に携わる消防団の視点からの質問が相次ぎ、7年前の地震に対する関心の高さが伺えました。

次に、祭時被災地展望の丘から落橋した祭時大橋を見学しました。その後、見学通路を歩いて国道が大きく崩れている様子や、落橋した祭時大橋を目の前で見学しました。皆様からは、砂防堰堤の役割や山からの土砂供給について質問が出るなど、名取川、阿武隈川の下流域で活躍している皆様にとって、上流側の土砂供給と下流側の中州や海岸浸食といった、流域全体のバランスに対しても大きな関心を寄せているようでした。

今日の出前講座を通じて、防災や人命救助に携わる消防団の皆様にとって、7年前に発生した「岩手・宮城内陸地震」を振り返り、今後の防災活動への一助となれば幸いです。



大規模な河道閉塞（天然ダム）が発生した市野々原地区。



落橋した「祭時大橋」を見学し、「岩手・宮城内陸地震」の被害の大きさを実感しました。